

難聴早期発見のために

難聴のお子さんは、軽いものを含めると1000人に1人くらいいるといわれています。

軽い難聴はなかなか発見できず、2～3歳になって言葉の遅れから発見されることも少なくありません。発見が遅れると、言葉だけでなく知恵、社会性などの発達が遅れて、取り戻すことが難しくなります。

しかし、重い難聴があっても、1歳になる前に発見し、補聴器などをつけたり、特別の訓練をすると、普通のお子さんと同じ発達も可能になります。

■家庭でできる早期発見（舌うちテスト）

生まれてから10日以上たってから行います。

〈方法〉赤ちゃんが、眠くなって眼を閉ざしてすぐ（2～3秒後）に耳元から50cmくらいはなれて、舌うち音をチッ、チッ、チッ…と2～3秒間（8～12回）くらいならします。耳が聞こえていると眼をゆっくり開くか、まれには閉じている眼を更に強く閉じます。

（深く眠っているときは反応しないので、注意してください。）

＊この方法は、左右別々にできます。

＊1回だけでは、はっきりわからないこともありますので
何度もやってみてください。



この舌うちテストで中等度及び重度の難聴を発見できることがあります。

■家庭での音に対する反応

2ヵ月児	眠っていて急に鋭い音がすると、ビクッと手足を動かしたりまばたきする。
	眠っていて子どもの騒ぐ声や、くしゃみ、時計の音、掃除機などの音に眼をさます。
	話しかけると、アーとかウーと声をだして喜ぶ。（または、にこにこする。）
3ヵ月児	眠っていて突然音がすると、まぶたをピクッとさせたり指を動かすが、全身がピクツとなることはほとんどない。
	ラジオの音、テレビのスイッチの音、コマーシャルなどに顔（または眼）を向けることがある。
	怒った声や優しい声、歌、音楽などに不安そうな表情をする。
4ヵ月児	日常のいろいろな音（玩具・テレビの音・楽器音・戸の開閉など）に関心をしめす。（振り向く）
	名を呼ぶとゆっくりではあるが振り向く。
	不意の音や聞き慣れない音、珍しい音にははっきり顔を向ける。
5ヵ月児	耳元に目覚まし時計を近づけるとコチコチという音に振り向く。
	父母や人の声、録音された自分の声など、よく聞き分ける。
	突然の大きな音や声にびっくりして、しがみついたり、泣きだしたりする。

■難聴と疑われたら

赤ちゃんが舌うちのテストの人の声に反応しないときは、乳児健診のときに申し出てください。

軽い難聴の早期発見のために、1歳6か月児健診・3歳児健診を受けるようにしましょう。

大津町役場 健康保険課 母子保健係（子育て・健診センター内） ☎096-294-1075